



## 2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月2日

上場会社名 株式会社ストリームメディアコーポレーション 上場取引所 東  
 コード番号 4772 URL http://www.streammedia.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 東佑  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部門長 (氏名) 山田 政彦 TEL 03-6809-6118  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第1四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年3月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	2,747	134.0	188	—	188	—	172	—
2022年12月期第1四半期	1,174	△23.2	△124	—	△118	—	△99	—

(注) 包括利益 2023年12月期第1四半期 821百万円 (—%) 2022年12月期第1四半期 △895百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	1.48	—
2022年12月期第1四半期	△0.86	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第1四半期	13,030	7,514	50.8
2022年12月期	10,067	6,693	60.1

(参考) 自己資本 2023年12月期第1四半期 6,614百万円 2022年12月期 6,053百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年12月期	—	—	—	—	—
2023年12月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,273	31.0	84	—	88	—	70	—	0.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期 1 Q	115,903,831株	2022年12月期	115,903,831株
② 期末自己株式数	2023年12月期 1 Q	9,675株	2022年12月期	9,675株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期 1 Q	115,894,156株	2022年12月期 1 Q	115,894,231株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信〔添付資料〕3ページ 1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループの関連する市場につきましては、エンターテインメント業界では、個人判断によるマスク着用を基本とする等、新型コロナウイルス感染症対策のための制限にも生活レベルで変化がありました。コンサート市場規模もコロナ禍前の2019年レベルまで回復すると予想されています。メディア業界では多チャンネルサービスの加入世帯減少、韓国コンテンツの人気沸騰による著作権獲得競争の激化が続いているだけでなく、中華圏作品の著作権ビジネス競争も増しており市場環境は厳しい状況にあります。

このような経営環境の中、2023年12月期は黒字化を予定しており、当社グループの当第1四半期連結累計期間におきましては順調に推移しております。

エンターテインメント事業では、2016年に韓国デビューし世界的に人気を博しているNCT DREAMが、2月17日から19日までデビュー初となるドーム公演を京セラドーム大阪にて3公演開催しました。本公演は約12万人を動員した他、TV放送を始め全国映画館でのライブビューイングや映像配信プラットフォームBeyond LIVEを通し全世界へ配信を行いました。また、3月18日と19日には約3年ぶりとなるSuper Juniorのツアーシリーズ「SUPER SHOW」をベルーナドームにて2公演開催し、約6万人を動員しました。キャッシュカウであるコンサート事業は、当第1四半期連結累計期間においてドーム公演を含む計29公演のオフラインコンサートを実施し、約32万人を動員しました。

ライツ&メディア事業では、KPIに掲げているK-POPプレミアムコンテンツ放送は、大型オンラインコンサート「SMTOWN LIVE 2023 : SMCU PALACE@KWANGYA」を含む計2作品を放送しました。第2四半期では4作品のK-POPプレミアムコンテンツ放送を予定し、新規加入の促進を図ってまいります。また、KNTVの配信サービスKNTV+を、サービスの質は維持しつつも運用に係るコストを大幅に見直し第3四半期にリニューアルを予定、利便性向上による新規加入並びに解約防止に引き続き努めてまいります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,747百万円（前年同期比134.0%増）、営業利益は188百万円（前年同期は124百万円の営業損失）、経常利益は188百万円（前年同期は118百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は172百万円（前年同期は99百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(エンターテインメント事業)

コンサート事業では、オフラインコンサートが本格化し予定どおりの開催数を実施することができました。物価高に伴う原価上昇が生じていますが、チケット価格やMD価格等の一部見直し、放送権販売により収益を確保しています。結果、当第1四半期連結累計期間におけるコンサート事業の業績につきましては、予定を上回り好調に推移しております。2月11日より東方神起が約3年半ぶりとなるコンサートツアーを開始しました。本ツアーは計20公演を予定しており、6月には京セラドーム大阪と東京ドームでの追加公演も決定しています。2022年に92万人の応募が殺到するショーケースを開催したaespaは3月15日より計12公演のコンサートツアーを開始しました。第2四半期では4月15日と16日にEXOが約5年ぶりとなるファンクラブイベントをベルーナドーム、NCTの派生グループWayVによる初の日本単独イベント開催を5月6日と7日に予定しています。東方神起の京セラドーム大阪、東京ドーム公演も6月17日から4公演控えている他、8月5日と6日にはaespaが海外アーティストデビュー最速となる初の東京ドーム公演も予定しています。

MD事業では、各アーティストのオフラインコンサートが本格化したことにより、コンサートグッズの販売に注力しました。オフラインコンサート数に比例して、コンサートグッズの制作数も増加し、売上に寄与しました。また、aespa(2都市3か所)とSHINee(2都市2か所)による期間限定のポップアップカフェの展開、NCTとSANRIO CHARACTERSがコラボしたアミューズメント専用景品を全国展開する等、アーティストIPを活用したオリジナルグッズの展開を行ってまいりました。

音楽事業では、2タイトルの音源を発売しました。2月1日にリリースした東方神起のNewシングル「PARALLEL PARALLEL」は、オリコン週間ランキング上位を獲得しました。また2月8日にNCT DREAMが日本初となるNewシングル「Best Friend Ever」をリリースし、オリコン週間ランキング1位を獲得しました。

音楽以外の活動におきましては、ABEMAにてNCT DREAMの日本デビューを記念した特別番組を3月24日と31日にわたり放送した他、NCT127に所属する日本人メンバー YUTAが、4月14日より放送するテレビ東京系ドラマ25「クールDJ男子」にて主演を務めることが決定しました。本ドラマのエンディングテーマにはNCT127「Sunny Road」が採用されています。その他、各種地上波番組出演や雑誌掲載等、音楽以外におきましても精力的に国内の活動を展開しております。

この結果、売上高は2,001百万円（前年同期比622.1%増）、セグメント利益は235百万円（前年同期は55百万円のセグメント損失）となりました。

## (ライツ&amp;メディア事業)

ライツ事業では、著作権獲得数は前年同期比5%増と昨年並みとなりました。しかしながら先述したとおり、著作権獲得競争の激化に加え為替も不安定な状況のため価格高騰が生じており、今後のコンテンツ調達に影響が出る可能性があります。一方、オリジナル作品が地上波TVにてリメイク放送され話題になっている「夫婦の世界」は、2020年に韓国版をライツ事業で獲得し、KNTVにて日本初放送を行いました。当第1四半期連結累計期間において卸先OTTサービスでの視聴数が好調であり、事業実績に貢献しています。

放送事業では、2023年1月1日に開催されたSMエンタテインメント所属の全てのアーティストが一世に集う大型オンラインコンサート「SMTOWN LIVE 2023 : SMCU PALACE@KWANGYA」の世界同時公開に合わせ、KNTVで同時放送しました。また、本年度は積極的にBeyond LIVEコンテンツを取り扱っていく方針のもと、SHINeeによる「Beyond LIVE the Movie SHINee : SHINee WORLD」もTV初放送しました。加えて出演アーティストの関連番組を編成する等、加入及び解約へのさらなる対応を実施しましたが、生中継番組等と比較すると効果は限定的でした。第2四半期では、日本で人気を誇る俳優チャン・グンソクが約5年ぶりに主演を務めるドラマ「餌<ミッキ>(原題)」を獲得し、6月に日本初放送を行います。

近年OTTサービスでは日本初作品が増加しており、放送サービス関連企業にとっては依然として厳しい状況ではありますが、引き続き良質な作品の獲得を目指し、新規加入及び解約防止に注力してまいります。

この結果、売上高は746百万円(前年同期比16.4%減)、セグメント利益は115百万円(前年同期比72.7%増)となりました。

## (その他事業)

その他事業では、売上高は0百万円(前年同期比95.9%減)、セグメント損失は9百万円(前年同期は9百万円のセグメント損失)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は13,030百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,962百万円増加いたしました。流動資産は10,088百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,964百万円増加いたしました。その主な要因は、売掛金が1,430百万円増加、コンテンツ事業権が292百万円増加したことによるものであります。また、固定資産は2,941百万円となり、前連結会計年度末に比べ998百万円増加いたしました。その主な要因は、投資有価証券が999百万円増加したことによるものであります。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は5,515百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,141百万円増加いたしました。流動負債は4,634百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,795百万円増加いたしました。その主な要因は、買掛金が1,554百万円増加、その他が464百万円増加したことによるものであります。また、固定負債は881百万円となり、前連結会計年度末に比べ345百万円増加いたしました。その主な要因は、繰延税金負債が345百万円増加したことによるものであります。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は7,514百万円となり、前連結会計年度末に比べ821百万円増加いたしました。その主な要因は、その他有価証券評価差額金が389百万円増加及び非支配株主持分が260百万円増加、親会社株主に帰属する四半期純利益172百万円により利益剰余金が増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期の連結業績予想につきましては、当面の間は円安による物価高や経費高騰の影響を受けざるを得ない状況が続くと予想されますが、上半期前半よりキャッシュカウ事業であるコンサート事業を精力的に展開し、2022年度の倍以上となる年間155万人の動員を目指しております。国内での韓国コンテンツ需要は引き続き高い人気を維持しており、著作権価格の高騰及び顧客囲い込み競争は継続し熾烈な状態にあります。また、当社放送事業が属する多チャンネル放送市場は、規模縮小が進み継続して加入世帯数の減少が進むものと思われまます。今後、状況の進展や事業動向等を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,415,764	3,620,535
売掛金	2,609,273	4,039,980
商品	20,364	70
番組勘定	546,027	469,865
コンテンツ事業権	1,077,648	1,370,255
前渡金	109,834	83,884
その他	347,716	507,726
貸倒引当金	△2,371	△3,763
流動資産合計	8,124,257	10,088,553
固定資産		
有形固定資産	20,637	21,347
無形固定資産	22,259	20,705
投資その他の資産		
投資有価証券	1,854,497	2,853,812
その他	149,045	148,912
貸倒引当金	△102,866	△102,866
投資その他の資産合計	1,900,676	2,899,858
固定資産合計	1,943,574	2,941,911
資産合計	10,067,832	13,030,465
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,252,070	3,806,289
契約負債	258,166	97,048
賞与引当金	61,598	-
その他	267,210	731,257
流動負債合計	2,839,045	4,634,594
固定負債		
繰延税金負債	523,408	869,071
その他	12,220	12,220
固定負債合計	535,628	881,291
負債合計	3,374,674	5,515,886
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,041,970	6,041,970
資本剰余金	3,438,996	3,438,996
利益剰余金	△4,161,943	△3,989,919
自己株式	△33,087	△33,087
株主資本合計	5,285,935	5,457,960
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	767,614	1,156,729
その他の包括利益累計額合計	767,614	1,156,729
新株予約権	310,161	310,161
非支配株主持分	329,447	589,727
純資産合計	6,693,157	7,514,578
負債純資産合計	10,067,832	13,030,465

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
売上高	1,174,280	2,747,741
売上原価	869,829	2,155,114
売上総利益	304,450	592,627
販売費及び一般管理費	428,998	404,485
営業利益又は営業損失(△)	△124,547	188,142
営業外収益		
受取利息	477	462
為替差益	3,270	—
業務受託料	791	483
受取家賃	1,320	—
その他	34	16
営業外収益合計	5,893	961
営業外費用		
支払利息	39	—
為替差損	—	441
その他	0	3
営業外費用合計	39	445
経常利益又は経常損失(△)	△118,694	188,658
特別利益		
固定資産売却益	1,225	—
新株予約権戻入益	4,520	—
特別利益合計	5,745	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△112,948	188,658
法人税、住民税及び事業税	1,154	20,890
法人税等調整額	△4,539	—
法人税等合計	△3,385	20,890
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△109,563	167,768
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△9,746	△4,256
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△99,817	172,024

## (四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△109,563	167,768
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△785,822	653,652
その他の包括利益合計	△785,822	653,652
四半期包括利益	△895,385	821,420
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△567,612	561,140
非支配株主に係る四半期包括利益	△327,773	260,280

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンターテインメント 事業	ライツ&メディア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	277,171	892,413	1,169,585	4,694	1,174,280
外部顧客に対する売上高	277,171	892,413	1,169,585	4,694	1,174,280
セグメント間の内部売上高又は 振替高	2,000	309	2,309	—	2,309
計	279,171	892,723	1,171,894	4,694	1,176,589
セグメント利益又は損失(△)	△55,183	66,959	11,776	△9,702	2,073

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	11,776
「その他」の区分の利益	△9,702
全社費用(注)	△126,621
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△124,547

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンターテインメント 事業	ライセンス&メディア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	2,001,508	746,040	2,747,548	193	2,747,741
外部顧客に対する売上高	2,001,508	746,040	2,747,548	193	2,747,741
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	2,001,508	746,040	2,747,548	193	2,747,741
セグメント利益又は損失 (△)	235,023	115,608	350,631	△9,396	341,235

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	350,631
「その他」の区分の利益	△9,396
全社費用(注)	△153,093
四半期連結損益計算書の営業利益	188,142

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。